学位論文審査の結果の要旨（課程）

学位論文審査申請者氏名	佐藤　忠恭
学位論文名	ローカル・フードシステムと都市農地保全に関する研究

学位論文審査終了年月日	学位論文審査の結果
令和 3 年 6 月 19 日	合格・不合格

学位論文審査の結果の要旨は次ページ以降（別紙記載要領により作成のこと。）

学位論文審査委員	主査　(自署) 野見山敏雄	副査　千年　篤
	神代　英昭	山﨑　亮一
	福與　徳文	

※平成 30 年 10 月入学　農林共生社会科学専攻　農林共生社会科学大講座		
学位論文審査申請	令和 3 年 5 月 27 日	
学位論文審査委員の選出	令和 3 年 6 月 7 日	
学位授与の可否の議決（可・否）	令和 3 年 8 月 2 日	

東京農工大学大学院連合農学研究科

学位論文審査の結果の要旨

佐藤　忠恭

本研究では，ローカル・フードシステムの観点から市街地と農地の混在合理性を示し，それを起点として都市農地保全のあり方を提示することを目的とした。

まず，市街地に混在する都市農地の存在は，ローカル・フードシステムを構成する供給方法を支え，生産者と消費者のコミュニティ形成，関係継続に寄与することを示唆した。次に，市街地に混在して存在する生産緑地の保全がローカル・フードシステムの維持につながることを関東地方の庭先直売と生産緑地の関係から示した。

そして，生産緑地の保全をいかに図るか，という視点から，川崎市の都市農地保全施策を概観したのち，農地所有者の意思に生産緑地の保全の成否がかかっていることを確認した。

続いて川崎市を対象に，生産緑地の立地と野菜庭先直売の立地の関係，およびそれらがローカル・フードシステムの機能にもたらす効果との関係を分析した。その上で，生鮮野菜アクセスの改善をもたらす生産緑地を把握し，ローカル・フードシステムの視点から生産緑地のうち保全優先度の高い農地の特定を試みた。中でも高路線価によって維持意向が弱く，生産緑地の指定解除を回避する手立てがより重要となる生産緑地の町丁を抽出した。最後に，自治体による生産緑地公有地化の可能性を検討した。

結論としては，第一に生産者と消費者のコミュニティ形成，関係継続への寄与，生鮮野菜アクセス改善への寄与から，市街地と農地の混在には合理性が認められる。第二に都市農地保全においては，ローカル・フードシステムに資する立地の都市農地を重点的に保全すべきである。

以上のように，本論文はローカル・フードシステムと都市農地保全に関して多くの新しい知見を有している。本学位論文審査会は，論文の内容，構成および公表論文数などから，本論文が博士(農学)の学位論文として十分価値があるものと全員一致して認め，合格と判定した。